

第5回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会

日時：平成31年2月25日（月）15：00～
場所：神戸市役所3号館3階 交通局大会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 検討委員会（委員の紹介）

「新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会 委員名簿」 (資料1)

「第5回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会 座席表」 (資料2)

3. 報告

「意見募集の結果について」 (資料3)

4. 議 事

基本計画（案）について (資料4)

5. その他

6. 閉会

新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会委員

(1) 整備基本計画検討委員会

	委員	所属・役職	備考
芸術家 ・芸術文化団体関係者	貞松 正一郎	(一社) 貞松・浜田バレエ団 理事・芸術監督	洋舞分野 日本バレエ団連盟理事
	服部 孝司	神戸市民文化振興財団理事長	現神戸文化ホール指定管理者 神戸市室内合奏団、神戸市混声合唱団
	宮本 慶子	兵庫県音楽活動推進会議代表 神戸マリンバソサエティ主宰	器楽(洋楽・クラシック)分野 神戸芸術文化会議舞台芸術部会長
	森 もりこ	劇団自由人会代表 兵庫県劇団協議会代表	演劇分野 神戸文化ホール検討会議メンバー
学識経験者等	斉田 好男	神戸大学名誉教授 全日本合唱連盟常務理事	指揮、オペラ・管弦楽・吹奏楽 分野
	清水 裕之	名古屋大学名誉教授 文化経済学会元理事長	ホール空間計画分野
	徳永 高志	アートNPO ココア理事長 慶應大学文学研究科非常勤講師	ホール運営分野 H28年度文化ホールあり方検討外部委員
	根津 昌彦	(合) ゼンクリエイト代表 兵庫県合唱連盟理事	まちづくり・賑わい分野 三宮中央通りまちづくり協議会コンサルタント 三宮クロススクエアWSファシリテータ
	藤野 一夫	神戸大学大学院 国際文化学研究科教授	文化政策分野
経済界	伊藤 紀美子	田嶋(株) 代表取締役社長	神戸商工会議所副会頭
	中内 仁	(株)神戸ポートピアホテル 代表取締役社長	経済同友会副代表幹事 MICE 担当
議会	高瀬 勝也	神戸市議員	文教こども委員会委員長
	かわべ 宣宏	神戸市議員	文教こども委員会副委員長

(2) テクニカルアドバイザー

豊田 泰久 (音響設計家、(株)永田音響設計ロサンゼルス事務所・パリ事務所代表)

資料 2

第 5 回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会 座席表

服部委員

清水委員長

藤野委員

徳永委員

斉田委員

●

●

●

●

●

高瀬委員 ●

かわべ委員 ●

宮本委員 ●

貞松委員 ●

● 根津委員

● 森委員

● 伊藤委員

● 中内委員

事務局	空間創造研究所
-----	---------

● ● ● ● ● ● ●

住宅都市局	行財政局
-------	------

● ● ● ● ● ● ●

住宅都市局	企画調整局
-------	-------

● ● ● ● ● ● ●

傍聴席 (椅子のみ)

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

市民意見募集結果

幅広く市民の意見を聴取するため、第4回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会後に、当日の資料や議事要旨を市ホームページや各区役所、区民センター等で閲覧できるようにして、市民からの意見を募集しました。

また、意見募集を行う旨を市ホームページや広報紙2月号に掲載して周知を図りました。

募集期間	平成31年1月24日（木曜）～2月14日（木曜）
提出方法	郵送、FAX、電子メールまたは持参
意見提出数	23通

(1) 機能・仕様・運営について

(主な意見)

- ・ 大ホールの規模として、音響面や鑑賞面でもちょうど良い規模になったのではないと思う。
- ・ ホールが分散配置されるが、それぞれのホールの特色をしっかりと打ち出し、三宮全体のにぎわい創出の核となる施設を目指してもらいたい。
- ・ 色んなホールが三宮にできるようで、とても楽しみ。時期がズレても、より良い物を作って欲しい。
- ・ いずれのホールも「さすが神戸だ」と思われるような、高質で立派なホールにしてもらいたい
- ・ 市民からも愛され、全国・世界からもぜひ利用したいと思われる空間にして欲しい。
- ・ 劇場＝ハコではなく、街づくりという観点からも、地域に根ざした素晴らしいホールを、いろんな経験、実践例を踏まえて造って欲しい。
- ・ バスターミナルⅠ期には大ホール、Ⅱ期に演劇も含めた中ホールの見直し案には賛成。
- ・ 音響設計には力を入れて取り組んでもらいたい。(同一趣旨ほか2件)
- ・ 大ホールの客席数は、現状と同じく 2,000 以上が必要と考える。舞台の大きさも現状と同じ大きさを希望する。
- ・ 建て替えて、現状の利用者が多い音楽専用ホール（大ホール・中ホールとも）にして欲しい。
- ・ スタジオがあることは大きく、スタジオ公演も可能となれば利用率は高まると思う。
- ・ 利用者や専門家の意見を取り入れて使い勝手の良いホールを整備して欲しい。(同一趣旨ほか1件)
- ・ この計画の推進には是非とも、プロ（全国的あるいは兵庫県の劇団）やアマ（主に兵庫県）の演劇創造団体や演劇鑑賞団体の要望や意見が反映される機会を十分に作って欲しい。(同一趣旨ほか1件)
- ・ バスターミナルⅠ期とⅡ期ビルを何箇所か空中で接続できるようにすべき。
- ・ 駅から迷うことなくホールに行ける動線が必要。

- ・ 駅前バスターミナル上の高層ビル内に劇場を配置すると、搬出入が大変になることを懸念する。また、ビル内に立地する劇場はアクセスが分かりづらく、さらにホールが分散するため、迷う方が続出すると思う。
- ・ 運搬が混雑するので混雑を少しでもスムーズにできるような搬入、搬出口、ホールからの通路を気にかけて欲しい。
- ・ ロビーやホワイエが老若男女問わずいつでも気軽に利用できて、憩いの場にもなって欲しい。
- ・ 文化ホールでは、歌舞伎、能、人形浄瑠璃（淡路で子供たちが受け継いでいる）等が出来るようにして欲しい。
- ・ ステージは可動式が必要。
- ・ ステージ横の舞台袖の広さを確保して欲しい。
- ・ 現大ホールは座席が狭いので広くしてほしい。
- ・ 大・中・音楽専用の指定管理者が3ホールバラバラだと問題がある。
- ・ ハード面もちろん大事だが、どんな運営をしていくのか、ソフト面での提案も示して欲しい。
- ・ ハコをどう運営するのか、貸し館だけではなく自主企画を打っていただけるだけの予算がなければ生きた劇場にはならない。

（２）その他

- ・ 敷地内禁煙が望ましい
- ・ 目立っている公共劇場は、必ずしも大都会の駅前にあるとは限らないので、現在の場所での建て替えを検討すべき。
- ・ 区民ホールがバスターミナルⅡ期の整備となり当初より遅れることから、その間使用する現在の神戸文化（中）ホールの改修が必要になるのであれば、利用団体の公演などに支障がないよう、実施期間などに配慮して欲しい。
- ・ 大倉山の跡地に演劇を主とした多目的ホールを作って文化ゾーンとせねば、神戸駅周辺が寂れないか心配。
- ・ 現在の文化ホールも存続させて欲しい。
- ・ 現・神戸文化ホールの今後（大倉山、跡地利用も含めて）も併せて示して欲しい。

新・神戸文化ホール整備基本計画（案）

平成31年2月
神戸市

はじめに

神戸文化ホールは、神戸の芸術文化の基幹ホールとして、昭和 48 年に開館（昭和 47 年竣工）し、今日に至るまで、市民をはじめとする多くの方に利用されている施設です。

しかし、施設や設備の老朽化が進み、機能面でも神戸の芸術文化を支える基幹ホールと呼ぶのに相応しいとは言えない状況となっております。

そのため、将来を見据えた施設の見直しを図るため、平成 28 年度に神戸文化ホールのあり方について検討を行い、平成 29 年 3 月に「神戸文化ホールのあり方検討のまとめ」としまとめています。

そのまとめの中では、現・文化ホールが抱える課題を解消し、これからの基幹ホールとして期待される役割を果たすためには、制約の大きい大規模改修（長寿命化）ではなく、建替を前提に検討する必要性があるとしています。

整備にあたっては、市民の誰もが文化に触れることのできる機会を提供すること、また、市民の誰もが文化活動を実践できる環境を整えることを目標とします。また、これまで神戸文化ホールが担ってきた役割や利用者の思いなどを継承しつつ、国際都市神戸にふさわしい芸術文化の基幹ホールとして、今後の神戸のまちづくりにも大きく貢献する芸術文化創造拠点となるホールを目指します。

この新・神戸文化ホール整備基本計画は、新たな神戸文化ホールの整備における方針を示すものです。

目 次

1. **新・神戸文化ホールの整備方針**
 - (1) 三宮周辺地区の再整備
 - (2) 新・神戸文化ホール整備の検討の経緯
 - (3) 施設の配置計画
 - (4) 新・神戸文化ホールの整備方針

2. **事業の考え方**
 - (1) 事業展開の基本方針
 - (2) 事業内容

3. **施設計画**
 - (1) 施設計画の考え方
 - (2) 基本性能の整理
 - (3) 主たる機能諸室

4. **管理運営の考え方**
 - (1) 管理運営の基本方針
 - (2) 組織体制の基本方針
 - (3) 収支計画の考え方

5. **整備スケジュール（予定）**

6. **概算事業費**

7. **今後の検討課題**

1. 新・神戸文化ホールの整備方針

(1) 三宮周辺地区の再整備

三宮周辺地区の『再整備基本構想』（平成27年9月）

神戸の玄関口である三宮周辺地区については、民間活力の導入を図りながら、魅力的で風格ある都市空間を実現すべく、事業化を見据えたより具体的な検討を行い、「三宮周辺地区の『再整備基本構想』（以下、「再整備基本構想」という。）を策定しています。

再整備基本構想では、地域全体に求められる項目として、『都市間競争において、選ばれるための魅力・活力の創造』、『地区内及び周辺地域への回遊性向上』、『商業や業務、文化、交流機能の集積と更新』などが挙げられています。

その中で「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」として、まちづくりの5つの方針を定めています。

- | |
|---------------------|
| 1 歩くことが楽しく巡りたくなるまちへ |
| 2 誰にでもわかりやすい交通結節点へ |
| 3 いつ来てもときめく出会いと発見を |
| 4 人を惹きつけ心に残るまちへ |
| 5 地域がまちを成長させる |

新・神戸文化ホールは、集客性や発信力、まちづくりや賑わいの視点、経済の活性化や都市としての競争力強化、市民にとっての利便性向上などの観点から、三宮周辺地区での整備を予定しており、再整備基本構想における方向性を十分に配慮した計画とする必要があります。

(2) 新・神戸文化ホール整備検討の経緯

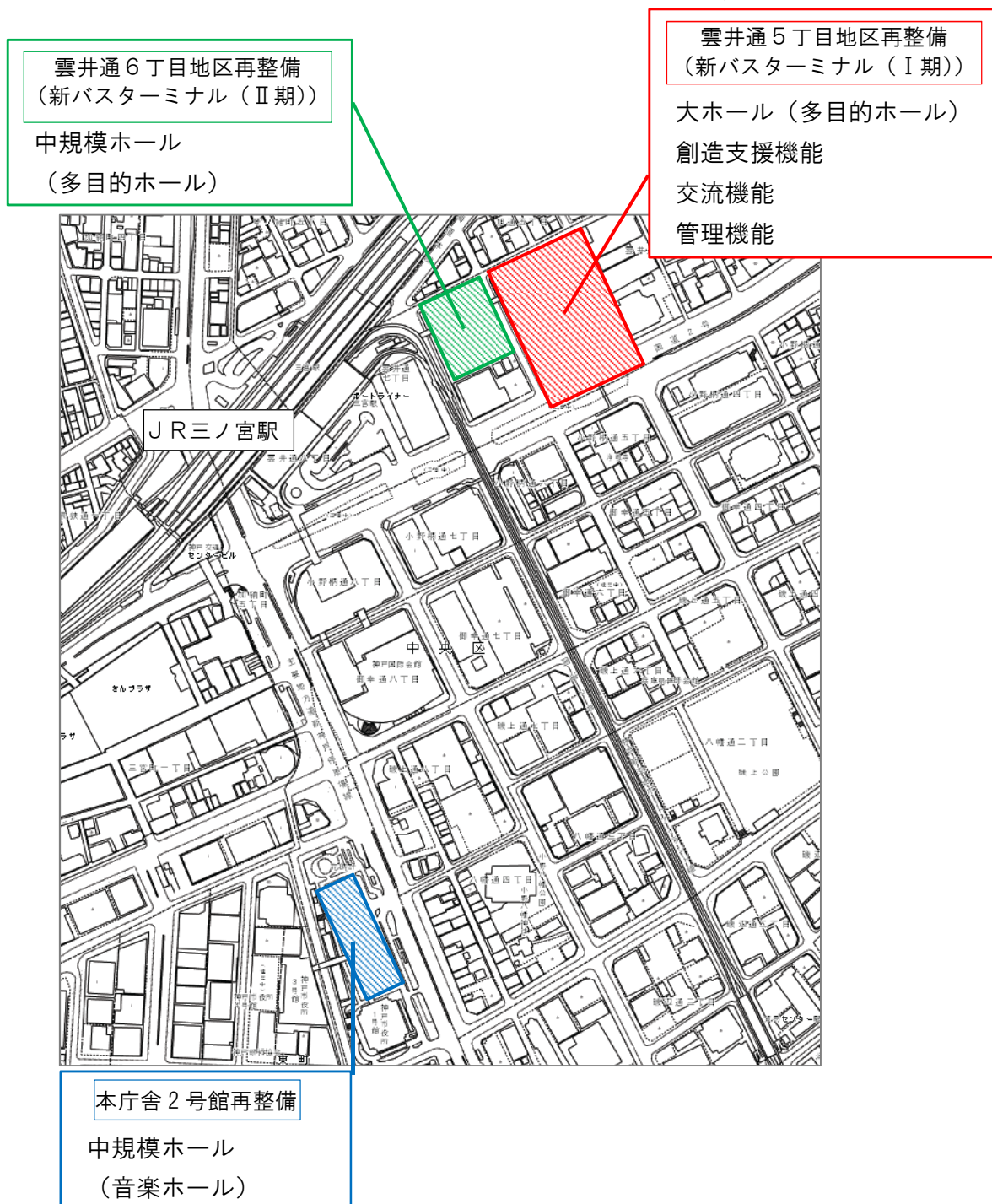
平成28年度に実施したあり方検討のまとめを受けて、平成30年度に整備基本計画検討委員会を開催し議論を重ねてまいりました。また、検討委員会終了後は意見募集を実施するなど、広くご意見を頂戴しながら検討を進めました。

日	時	議	題	等	
平成30年	6月6日	第1回検討委員会	・基本計画の構成案について ・整備する場所、規模、機能、仕様等について		
	6月25日	～第1回ワーキング～			
	7月11日	第2回検討委員会	・基本計画(素案)について①		
	8月8日	～第2回ワーキング～			
	8月22日	第3回検討委員会	・基本計画(素案)について②		
	12月17日	～第3回ワーキング～			
平成31年	1月10日	第4回検討委員会	・基本計画(素案)について③		
	2月25日	第5回検討委員会	・基本計画(案)について		

(3) 施設の配置計画

三宮周辺地区における再整備の中で、新・神戸文化ホールを整備することにより、芸術文化の発信・交流の拠点として、まちの回遊性を高め、新しい人の流れを創出するとともに、多様な人材の交流に役立つことで、まちの魅力や賑わいを最大限創出していきます。

本計画では、「大ホール及び中規模ホール（多目的ホール）」を「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目地区再整備」において、また「中規模ホール（音楽ホール）」を「神戸市役所本庁舎2号館再整備」において配置していきます。



(4) 新・神戸文化ホールの整備方針

前述の「神戸文化ホールのあり方検討のまとめ」において、公の施設である新・神戸文化ホールが目指す機能・役割は、2012年（平成24年）に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（以下、「劇場法」という。）」も踏まえて、以下のように整理されています。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 市民の誇りとなる、神戸らしい芸術文化の発信② 市民主体の芸術文化活動の促進、更なる高度化の支援③ 芸術文化を担う創造的人材の育成と活用④ 多様な人材が交流し、まちのにぎわいを生み出す空間と経済波及効果の創出⑤ 神戸の個性を発揮することによる「選ばれるまち」の実現⑥ 芸術文化の普及啓発拠点として誰もが芸術文化に触れる機会を提供 |
|--|

新・神戸文化ホールは、これらの機能・役割を果たすことを整備方針とします。

そのために、新たに三宮周辺エリアに移転・整備し、新たな神戸の芸術文化を発信することで、「選ばれるホール」を目指します。

整備にあたり、以下の視点で検討していきます。

● 新たな三宮周辺地区のまちづくりにむけた視点

本施設は市の玄関口である三宮周辺地区において、魅力的で風格ある都市空間を実現するため、大きな役割を果たす施設です。

そのため、建物全体のシンボル性や外観デザインの質の高さなどに留意する必要があります。整備にあたっては、関連計画との調整を図っていきます。

また、各ホールの内装や客席内のデザインについても、優れた舞台芸術や音楽芸術を上演し鑑賞するために相応しく、かつ、神戸らしさを醸し出すことのできるデザインを計画します。

施設の運営や事業展開においては、回遊性の向上のため、三宮クロススクエアなどを含めた都心エリアの面的な広がりを作り、街中に文化が溢れる状況を目指します。

● ホール間の連携の視点

3つのホールを整備するにあたり、創造支援機能の一元化など、効率化を図ります。

また、国際コンクールや全国大会など、大規模な事業にも対応できるよう、3つのホールに加えて神戸国際会館こくさいホールなどとも連携を行います。

- 複合施設としての視点

各ホールは複合施設として整備されるため、施設全体との調整が求められます。利用しやすいホールの面からは、専用の搬出口など、独立性を確保するとともに、それぞれの施設内に整備される機能と連携・協働し、相乗効果を生み出していきます。

また、ホールの視認性に配慮した外観デザインを目指すとともに、ホールに至るまでの動線やエントランスにおいても、芸術文化の鑑賞の場という非日常的なハレの舞台の雰囲気を出すような仕掛けづくりなどにも取り組んでいきます。

加えて、施設を訪れる人が、鑑賞や事業への参加だけでなく、施設内の他の機能にも足を延ばしたり、回遊したりするような仕掛けづくりに取り組んでいきます。

- 基幹ホールとしての視点

これまで芸術文化に触れる機会が少なかった市民の方にも、親しみをもってもらえるようなプログラムの実施や、質の高い芸術文化を鑑賞する場を提供します。一方、楽屋、練習場などのバックヤードの快適性・利便性にも配慮します。

また、最新技術の導入や、分野を超えた新しい芸術文化の創造、交流を促進します。

官民学術機関一体となった先端的な芸術文化の制作・支援システムを構築することで、神戸の芸術文化の継承やさらなる展開を推進します。

- ユニバーサルデザインの視点

高齢者や障がい者、子どもなどを含めた幅広い市民が安心して利用できる施設とするため、ハード・ソフト面からユニバーサルデザインへの配慮を十分に行っていきます。

- 文化面における地域交流拠点としての視点

創造支援機能諸室などを活用することで、活動・発表の場となる施設を提供し、技術的支援や制作的な支援などにより市民の芸術文化活動を促進するとともに、市民の文化交流の場として、文化面から市民の自発的な活動を支えていきます。

- 振動対策・遮音性能・静音性能など

いずれの整備予定地も、鉄道や幹線道路が近接しています。鉄道や通行車両の運行状況を踏まえた十分な振動対策を行う必要があります。また、周辺の車両等から発生する騒音に対応するため、高い静音性能を確保する必要があります。

- 将来の改修に向けた配慮

舞台関連設備をはじめとする各種設備は、築後 20～30 年の間には大規模な改修が必要となります。定期的なメンテナンスはもちろん、将来の改修や設備更新などが容易に行えるよう十分に配慮した施設・設備設計等に取り組んでいきます。



観客・利用者には選ばれるホール

2. 事業の考え方

(1) 事業展開の基本方針

新・神戸文化ホールが目指す役割を実現させるために、積極的な事業及び活動を実践していくことが求められます。

特に、前述の新・神戸文化ホールが目指す機能・役割では、劇場法を踏まえた検討が行われており、その第3条に定義されている事業について十分に考慮したものとします。

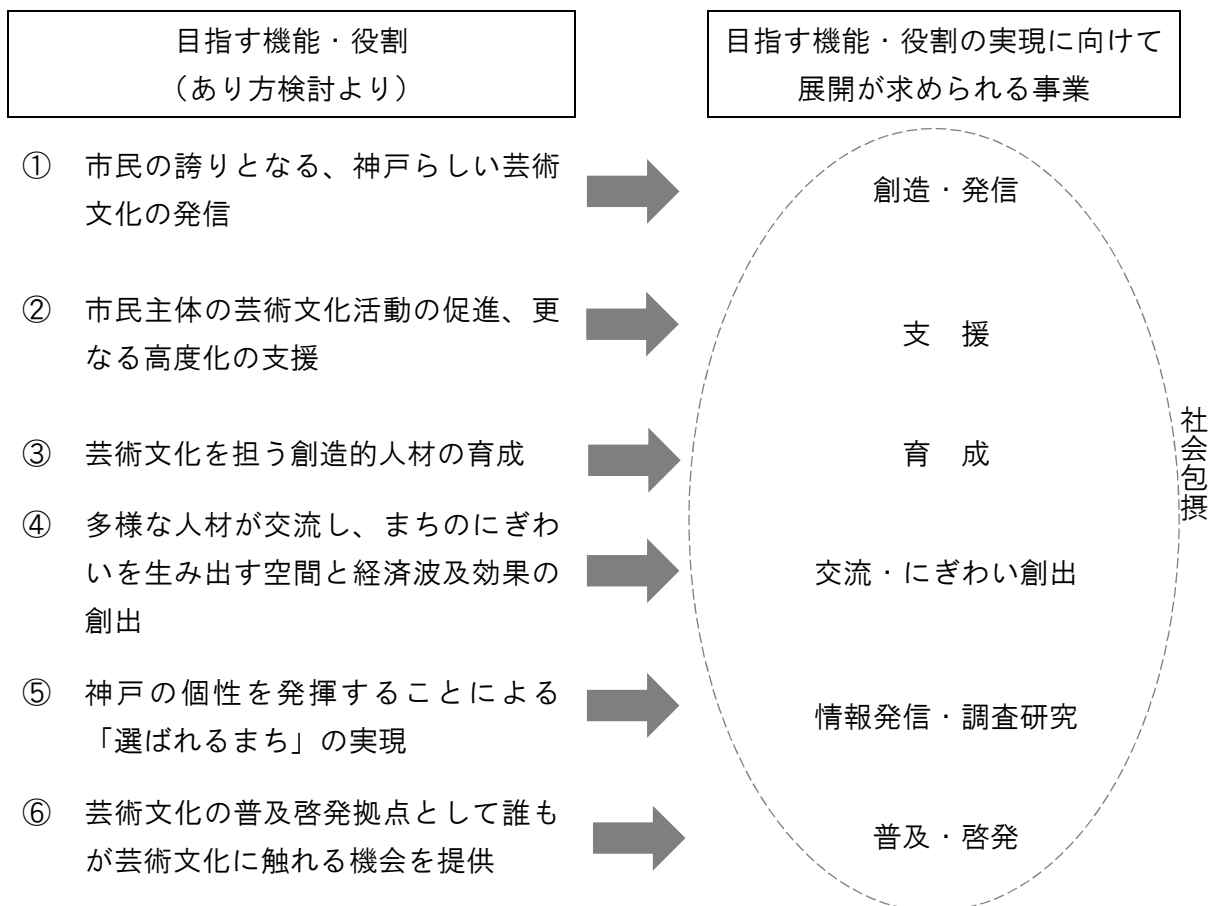
【参考】劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

(劇場、音楽堂等の事業)

第3条 劇場、音楽堂等の事業は、おおむね次に掲げるものとする。

- 1 実演芸術の公演を企画し、又は行うこと。
- 2 実演芸術の公演又は発表を行う者の利用に供すること。
- 3 実演芸術に関する普及啓発を行うこと。
- 4 他の劇場、音楽堂等その他の関係機関等と連携した取組を行うこと。
- 5 実演芸術に係る国際的な交流を行うこと。
- 6 実演芸術に関する調査研究、資料の収集及び情報の提供を行うこと。
- 7 前各号に掲げる事業の実施に必要な人材の養成を行うこと。
- 8 前各号に掲げるもののほか、地域社会の絆の維持及び強化を図るとともに、共生社会の実現に資するための事業を行うこと。

(2) 事業内容



以上を踏まえて「具体的事業展開」の考え方を整理します。

【事業展開の考え方】

<p>創造・発信 【鑑賞】</p>	<p>神戸らしい芸術文化作品の創造と発信を通じて、神戸の魅力を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団の活動をより広げ、各地での公演を行うなど市外へ発信していく。 ・映像・AI等幅の広い分野の協働・参画による創造的舞台芸術の企画・実施 ・神戸の魅力を高める公演の定期的な開催。 ・市民に対し、伝統芸能なども含めた幅広い分野の芸術文化の鑑賞機会の提供。 ・特に、文化ホールならではの大型作品等の鑑賞機会の提供。 ・国内外で評価の高いコンクールなどの継続開催 <p>【事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団のホール公演 ・神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団の県外公演 ・オペラ、バレエ、ミュージカル等の大型作品公演 ・ジャンルを超えたコラボレーションなどの芸術文化作品創造と県外公演の展開 ・「神戸国際フルートコンクール」や「こうべ洋舞コンクール」などの継続開催
<p>支援 【施設提供】</p>	<p>市民の芸術文化活動の支援として、場の提供を行い、芸術文化の基幹ホールとして市民の文化活動が促進・発展するための支援を積極的に行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の芸術文化活動の場（日常/発表）を広く提供し、市民の芸術文化活動の支援を行う。 ・施設利用者による鑑賞機会の提供を積極的に支援し、市民の鑑賞機会の充実につなげる。 ・次世代を含め芸術文化活動を行う層の支援を行う。 <p>【事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動者・団体への舞台技術面での専門性を活かした支援 ・施設利用者の公演開催における広報活動・販売促進活動など制作面での支援 ・指導者や他団体の紹介・マッチングなど市民の活動のレベル向上に向けた支援

<p>育成 【育成】</p>	<p>実演家及び様々な専門人材の育成を行い、地域における実演家・専門人材が抱える構造的課題解決を支援し、芸術文化活動の持続可能性を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化を取り巻く様々な課題を認識し、その課題を解決できる専門的人材の育成を行う。 ・ 地元の新進気鋭アーティストに対する上演機会の提供などを行う。 ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団の活動を活かした事業の展開なども検討する。 <p>【事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団メンバーをはじめとする実演家による学生対象のサマークリニック ・ 定期的な神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団メンバーによるレッスン ・ インターンシップの受け入れ ・ 専門人材の継続的な養成講座
<p>交流・にぎわい創出 【国際交流/連携】</p>	<p>日常的に人が集う仕掛けとしての事業展開、活動がにじみ出るような外部空間を活用した事業展開、周辺地域との交流・連携事業等を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三宮周辺地域で行われているイベントなどと連携した事業を展開するほか、利用がない時のホールホワイエの公開、誰でも利用できる共有ロビーでの事業展開、オープンデイの実施など施設を広く開いていく。 ・ また、諸室を使った事業だけでなく、外部空間を活用した音楽や舞台芸術を上演するイベントなども展開していく。 ・ 神戸市の文化の中核拠点として、各区民ホールをはじめとする文化施設、近隣の民間ホールとの連携・協力。 ・ 複合施設内の他機能をはじめ、地域の商業などと連携した地域の賑わいの創出。 ・ 国内外のアーティストによる地域との交流事業の実施 <p>【事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外のアーティストによるアウトリーチ ・ コンクール開催時のホームステイの実施 ・ こくさいホールをはじめ、ライブハウスなども連携したミュージックフェスタなど、既存インフラも活用した、街を一体的に巻き込んだフェスティバルの実施 ・ 若手演奏家による昼間時のミニコンサートの開催

<p>情報発信・調査研究 【情報・調査研究】</p>	<p>活動全体を通じての発信力を強化していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化に関する情報の収集と提供を行い、アーカイブとして蓄積していく。 ・ 大学などと連携し、実践的な芸術文化に関する調査研究・技術開発・先端的企画の立案と実施に取り組む。 <p>【事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の芸術文化イベント情報の提供 ・ 同じビルに存在する図書館などを活用したアーカイブと情報発信
<p>普及・啓発 【普及】</p>	<p>芸術文化に親しみ楽しむ層を広げていくための事業展開を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に聴きに行けるコンサートの実施。 ・ 演目への理解を深めるためのプログラムなどの実施。 ・ ワークショップなど芸術文化の楽しさや素晴らしさを体験できる参加・体験型事業の展開。 ・ 子どもたちに芸術文化の魅力や楽しさを体験する機会を提供する。 ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団による普及活動を検討する。(インリーチ・アウトリーチ) <p>【事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロビーコンサート、ワンコインコンサート ・ オペラなどの解説講座 ・ 学校など教育機関や福祉施設などへのアウトリーチ ・ 体験型ワークショップの定期的開催 ・ 市民等による各種ソフトを提供するホールサポーター制度の導入

3. 施設計画

(1) 施設計画の考え方

3つのホールを整備していくため、創造支援機能の一元化など、効率的な配置を図ります。

また、神戸国際会館こくさいホールなどとの連携を含め、国際コンクールや全国大会等にも対応できるような配置とします。

それぞれのホールが複合施設に整備されることから、他の施設計画と調整しながら、それぞれに独立した搬入動線を十分に確保していきます。

(2) 基本性能の整理

① 大ホール(多目的ホール)

神戸らしい芸術文化の創造と発信を通じて神戸の魅力を高める機能として整備し、現・文化ホール大ホールの機能を備えます。

大ホールは、現・文化ホール大ホールが担ってきた機能を基本的に継承するとともに、進化する様々な技術にも対応し、これからのホールとして求められる役割を果たすことを目指します。

また、兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール(2,001席)や神戸国際会館こくさいホール(2,022席)などとの役割分担も考慮します。

さらに、ゆったりと鑑賞ができるよう、座席のゆとりやステージまでの距離を考えるなど、観客の満足度を高める工夫、公演事業の採算性などに考慮します。

- ・客席数 1,800 席程度
- ・プロセニウム形式を基本とする舞台
- ・多層バルコニー客席

② 中規模ホール(音楽ホール)

現・文化ホール中ホールにおける音楽利用への対応に加え、クラシック音楽の生音の響きを活かせる特徴ある音楽ホールとして整備します。さらにこのホールは、神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団がレジデントするとともに、多くの演奏家が実演することで、これからの神戸の音楽文化振興及び関西地区の音楽芸術拠点となることを目指します。

また、兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール(417席)や神戸新聞社松方ホール(706席)などとの役割分担も考慮します。

- ・客席数 800 席程度
- ・多層バルコニー客席
- ・神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団の活動拠点として活用

③ 中規模ホール(多目的ホール)

現・文化ホール中ホールの舞台芸術利用に対して担ってきた機能を基本的に継承するとともに、中央区の区民ホールの機能を備えます。

様々なジャンルの文化活動の発表の場として幅広いニーズにフレキシブルに対応できる多目的ホールとして計画します。さらに、大ホールとの連携を行うための動線などを確保します。

多目的ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目再整備計画の計画と合わせて検討を進める必要があるため、今後行うものとします。

- ・客席数 700 席程度
- ・多様な表現に対応できる舞台
- ・多層バルコニー客席

④ 創造支援機能

新・神戸文化ホールが担う活動や事業を支える基盤機能として、創造支援機能を整備します。創造支援機能とは、リハーサル室や練習室、スタジオなど本番前のウォーミングアップから日常的な練習、そして舞台芸術作品や音楽芸術作品などを創造するために必要な諸室です。施設を有効に活用するため、規模の大きなリハーサル室は、練習や創造活動だけでなく、市民の文化交流を目的とした発表会などにも使えるイベントスペースとしても利用されることを想定します。

また、リハーサル室、練習室などでの活動を支える楽器庫、大道具製作室、倉庫などを整備します。

さらには、創造支援諸室で行う活動や事業を支えるために、舞台技術者及び制作者などの控室として専門スタッフ室、練習利用する方々のための更衣室・シャワー室、打合せ室、さらに創造支援諸室を利用する市民が交流できる情報コーナー（飲食可）などを整備します。

基本的には大ホールに集約し、併設するとともに、上記②③の各ホール機能に則して、必要に応じて整備します。

- ・リハーサル室、練習室の充実及び各ホール等と連携した柔軟な運用
- ・先進事例を踏まえ、リハーサル室、練習室のうち、市民の文化交流を目的とした発表会などが行える仕様を検討する
- ・リハーサル室、練習室などの活動を支える諸室（楽器庫、譜面庫、大道具製作室、衣裳室など）
- ・創造支援活動を支える専門スタッフの控室、打合せ室、更衣室など
- ・自主事業の創造に優先的に利用できる大型練習室の確保
- ・利用団体・個人が相互に交流できる交流サロン

⑤ 交流機能

市民が気軽に利用でき、賑わいを創出するスペースを、上記①から③の各ホール機能に則して整備します。

- ・ロビー（情報コーナー、飲食コーナー、ギャラリー など）

⑥ 管理機能

本施設の管理運営を行う職員が執務するための機能のほか、施設貸出窓口や入場券の販売窓口などを設けます。

上記①から③の各ホール機能に則して、必要に応じて整備します。

- ・事務室、応接室、打合せ室、倉庫等
- ・警備員室
- ・機械室 など

（3）主たる機能諸室

① 大ホール(多目的ホール)

【基本的な方針】

- ・ 現・文化ホール大ホールが担ってきた機能を基本的に継承するとともに、次代を担うこれからのホールとして求められる役割を果たすことを目指し、オーケストラ・吹奏楽、オペラ、バレエ・ダンス、ミュージカル、歌舞伎・伝統芸能等の多彩な分野の大型作品公演等に対応できるものとします。
- ・ また、コンベンションなど大型の大会や集会等にも対応するものとします。

【基本性能】

基本性能は、今後以下の性能を確保できるように関連事業と調整を図ります

舞 台	<ul style="list-style-type: none">・ 舞台形式はプロセニウム形式を基本とする・ プロセニアムの開口は必要十分な間口と高さを確保するとともに、上演演目により間口・高さともに可変できる計画とする・ 主舞台は、上手・下手の側舞台を含めた舞台幅 56m×奥行 21m程度とする・ 可動式の音響反射板を設け、設置時の舞台は、フルオーケストラの配置が可能な広さを確保・ 主舞台と同規模の奈落を計画する。深さは、主舞台での使用が想定される大道具などが自在に転換できる必要十分な高さとする・ 舞台設備（舞台機構、舞台照明、舞台音響等）については、多様な演目に対応できる最新の機能と高い性能を備え、将来的な拡張性や更新に配慮する
-----	---

客席	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席数は1,800席程度とし、単層の主階客席と2～3層程度のバルコニー客席を備える ・ 建築音響的に生音の響きが十分に活かせる気積を確保する ・ 主舞台を十分に見渡せるサイトライン、ゆとりのある客席など誰にとっても望ましい鑑賞条件を備え、舞台との一体感を感じられる客席配置とする ・ 客席の前部には、任意の位置に停止できるオーケストラピット（オーケストラ迫、客席ワゴンの整備）を設置する。また、オーケストラ迫は、前舞台としても利用できる機能を備える ・ 最大視距離：30～35m程度 ・ 残響時間 <ul style="list-style-type: none"> ・ 可動式の音響反射板設置時：2秒程度（満席時） ・ 幕設置時：1.5秒程度（満席時）
楽屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計収容人数120人程度 ・ 舞台に加え奈落、オーケストラピットへの動線に考慮する
搬入口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬出入車両は11tクラスのガルウイング仕様のトラックを想定 ・ 舞台袖にできるだけ近い場所に搬入動線を確保

【創造支援機能】

リハーサル室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽、ダンス、演劇、伝統芸能など大ホールで行う公演等のリハーサルを行うに必要な広さと有効高さを確保 ・ リハーサル室に準ずる規模の、共用としないワークスペースを確保
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用の目的に即した広さと有効高さを備えた大練習室、小練習室を複数設ける ・ 小練習室の一つには、録音スタジオを付属

② 中規模ホール（音楽ホール）

【基本的な方針】

- ・ 現・文化ホール中ホールにおける音楽利用への対応に加え、クラシック音楽の生音の響きを活かせる特徴ある音楽ホールとして整備します。
- ・ 神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団がレジデントするホールとしての機能を備えます。

【基本性能】

舞台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽ホールにとってふさわしい室内形状に加えて、客席と一体となる舞台とする
----	--

舞 台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏のための舞台空間として、二管編成程度のオーケストラを配置できることを前提とする ・ 客席当たり 10 m³程度の気積を確保 ・ 主舞台の上手、下手の両側には、十分な控えの空間を設ける ・ 主舞台上部には、適切な位置に舞台吊物、舞台照明、舞台音響設備などを必要に応じて設ける。また、舞台床設備として、オーケストラを配置するための演奏者迫を適宜設ける
客 席	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席数：800 席程度とし、単層の主階客席と 1 層程度のバルコニー客席を備える ・ 最大視距離 25～28m程度 ・ 建築音響的にも生音の響きが十分に活かすことができる気積を備えた空間とする ・ 残響時間 1.8 秒程度（満席時） ・ 内装は新しい音楽ホールに相応しい色調及びデザインとし、音楽に相応しい静けさと豊かな響きが楽しめる空間とする
楽 屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計収容人数 80 人程度 ・ チューニング等で音を出すことができる部屋も適宜計画
搬入口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬出入車両は 4 t トラックを想定

【創造支援機能】

リハーサル室	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホールで行う公演等のリハーサルを行うのに必要な広さと生音の響きに配慮した天井の有効高さを確保する
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般への供用を行わない、レジデンス団体の活動のための練習室

③ 中規模ホール（多目的ホール）

【基本的な方針】

- ・ 現・文化ホール中ホールの舞台芸術利用に対して担ってきた機能を基本的に継承するとともに、中央区の区民ホールの機能を備えます。
- ・ 様々なジャンルの文化活動の発表の場として幅広いニーズにフレキシブルに対応できる多目的ホールとして計画します。
- ・ 大ホールとの連携を行うための動線などを確保します。

【基本性能】

舞 台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台寸法は、様々な分野の芸術文化に対応できるものとする
客 席	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席数 700 席程度とし、多層バルコニー客席を検討
搬入口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬出入車両は 11 t クラスのガルウイング仕様のトラックを想定

【創造支援機能】

リハーサル室	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダンス、演劇、伝統芸能などに対応する広さと有効高さを確保 ・ リハーサル室に準ずる規模の、共用としないワークスペース
--------	---

④ 共通機能

3つのホールに共通する事項については、以下の通りです。

創造支援機能、交流機能、管理機能については、各ホールの活動に合わせ適宜計画していきます。

舞 台	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホール搬出入専用の大型エレベータを設ける
客 席	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子席、聴覚障がい者や視覚障がい者の鑑賞を支援する補助装置、多目的室（親子室や舞台撮影、同時通訳などの機能を備える）などを整備し、誰もが快適に鑑賞できる舞台機能を支える環境を整える ・ 客席はゆとりを確保するとともに、長時間の鑑賞でも疲れることがない形状とする
ホワイエ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸らしさを演出し、公演の前後には観客同士が交流することのできる“ハレの場”としての空間とする ・ 各階客席数に応じた適切な広さを確保し、誰もが支障なく客席空間の各所にアクセスできる動線を確保する ・ 観客用トイレは各階の客席数に応じた数を計画し、男女のバランスに配慮するとともに、多目的トイレを各階客席に設ける。特に女性客の利用に配慮したブース数や出入口を別に設ける動線計画、パウダーコーナーの設置などにも配慮 ・ 主催者控室、もぎりや客席案内係の控室、物販スペース、クローク及びロッカー、飲食カウンター（バーコーナー）を設置
付帯機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音響調整室、投影室、調光操作室、各種投光室、アンプ室、調光機器室、備品庫等必要な室を設ける ・ 舞台技術スタッフ控室、その他備品庫（舞台照明、舞台音響、大道具他）を計画 ・ ピアノ庫・楽器庫（温湿度管理機能付き）を設ける
楽 屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定している上演演目に対応できる必要十分な出演者等を収容できる楽屋を、大・中・小楽屋としてそれぞれ複数室整備 ・ 小楽屋には、室内にトイレやシャワーブースを設ける ・ 収容人数に合わせた化粧前、更衣ブース・姿見、洗面、ロッカーやキャリングハンガーなどを置くためのスペースに配慮する ・ 舞台への動線、距離、快適性などに考慮する

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽屋エリアには、楽屋事務室、アーティストラウンジ、給湯室、楽屋トイレ・シャワー室、備品収納用倉庫などを設ける 	
搬出入口他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬出入車両 2 台が効率よく荷下ろしできるローディングデッキを搬出入車両の側面と後方に備える ・ 搬出入専用の大型エレベータにより安全かつ円滑に搬入物を移動できる計画とする。また、隣接して舞台スタッフ用のエレベータを設ける ・ 搬出入口近辺には、舞台中継録画に必要な車両が駐機できるスペースを確保するとともに、中継ケーブル等を舞台まで仮設することができる通線口や小扉を設ける 	
創造支援機能	リハーサル室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の文化交流を目的とした発表会などにも使えるイベントスペースとしても利用されることを想定 ・ 公演利用に則したホワイエ空間、控室、舞台照明及び音響設備などを過不足なく整備 ・ リハーサル室単独利用のための動線に加え、本番前のウォーミングアップやチューニング利用に使用できる舞台からの動線の確保
	練習室等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用の目的に即した広さと有効高さを備えた大・中・小練習室を複数計画
	付属機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報ラウンジ ・ 利用者用の男女別更衣室、ロッカー、トイレ及びシャワー、多機能トイレ ・ 技術スタッフと制作スタッフの連携にむけた技術・制作支援室 ・ 大道具・小道具、衣裳などの製作室、楽器庫、譜面庫、倉庫等
交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報コーナー、飲食コーナー、ギャラリー、談話コーナーなど ・ 美術ギャラリー ・ 十分な空間を持った交流ロビー、ホワイエ 	
管理機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務室（事務室、応接室、打合せ室、休憩室、更衣室、給湯室、倉庫等） ・ 託児スペース ・ 各種控室（警備員室、清掃作業員室など） ・ 機械室 <p style="text-align: right;">など</p>	

4. 管理運営の考え方

(1) 管理運営の基本方針

劇場、音楽堂等施設として高い専門性を持つ施設を、適切にかつ効果的に管理運営を行っていくため指定管理者制度を導入し、以下の視点を取り入れ、新・神戸文化ホールの整備方針や事業展開を実現できるような管理運営を行います。

- 開かれたホールの視点

神戸の象徴となる三宮周辺地域において、駅前の利便性をさらに高め、にぎわいや活力を生み出し「まち」を楽しんでもらう仕掛けの一つとして、前述の事業展開の考え方における「交流・にぎわい創出」を意識した運営により、エリアマネジメントに積極的に関与していきます。

また、芸術文化に親しむ層を広げていくため、「普及・啓発」も意識した運営を行います。

- 芸術文化の基幹ホールとしての視点

新施設は、現施設と異なり3つのホールを整備する計画となっています。同エリアに立地する神戸国際会館こくさいホール等との役割分担を図りながら、バスターミナルビル内に整備するホールと本庁舎2号館に整備するホールを含めた各ホールが、互いに相乗効果を発揮し、まちのにぎわいにつながるよう運営を行っていきます。

また、市民の多くが身近に利用する各区のホールなど市内の他の文化施設との役割分担や協働・連携することで、神戸の基幹ホールとして、市民の文化活動の促進も図るなど、芸術文化活動全体を意識した運営を行います。

- 長期的な視点

芸術文化、まちづくり、いずれも短期的に効果が表れるものではないため、継続性をもって計画的に事業や管理運営を行っていく長期的な視点が求められます。また、3つのホールの運営は、組織内にとどまるものではなく、神戸の芸術文化の創造と発展のために、実演家、専門人材、市民、研究機関等と連携・協働した運営を目指します。

また、施設や設備の維持管理等に関しても、長期的に安定して安全に施設を利用してもらえるように、予防保全の考えで計画的に行うことが望まれます。

- 神戸の芸術文化を支える・創る視点

実演家の発表の場だけでなく、市民主体の芸術文化活動を促進するため、専門性を持った助言・支援、高度な設備等への対応などを行います。

さらに、これからの新しい神戸の芸術文化を生み出していくため、市民の誇りとなるような、積極的かつ多様な事業展開を行います。

(2) 組織体制の基本方針

新・神戸文化ホールは、神戸の芸術文化の基幹ホールとして、その機能の最大効果を発揮できる組織体制となるよう計画していきます。

新・神戸文化ホールの運営を担う組織に必要な要件を以下のように整理します。

① 施設運営や事業運営に関する専門性の確保

市民の芸術文化活動をサポートするためのさまざまなノウハウを持ち、専門的な見地から支援すること、神戸を発信する事業展開や将来を見据えた育成や普及的活動などを戦略的に展開すること、地域との連携において核となること、経営的な視点を持つこと、など専門性を備えた組織とします。

② 安定性や継続性の確保

神戸の芸術文化の基幹ホールとして、安定的に継続性をもって運営を担うことのできる組織が必要です。

③ 創造性・柔軟性の確保

芸術文化活動は、決まった形で展開されるものばかりではありません。多様化する市民ニーズに応えることがこれまで以上に求められると考えられます。

その時々状況により、ホールにとどまらない事業展開、また、神戸のまちのにぎわいに資するような事業展開など、柔軟性のある、創造性豊かな組織作りを行います。

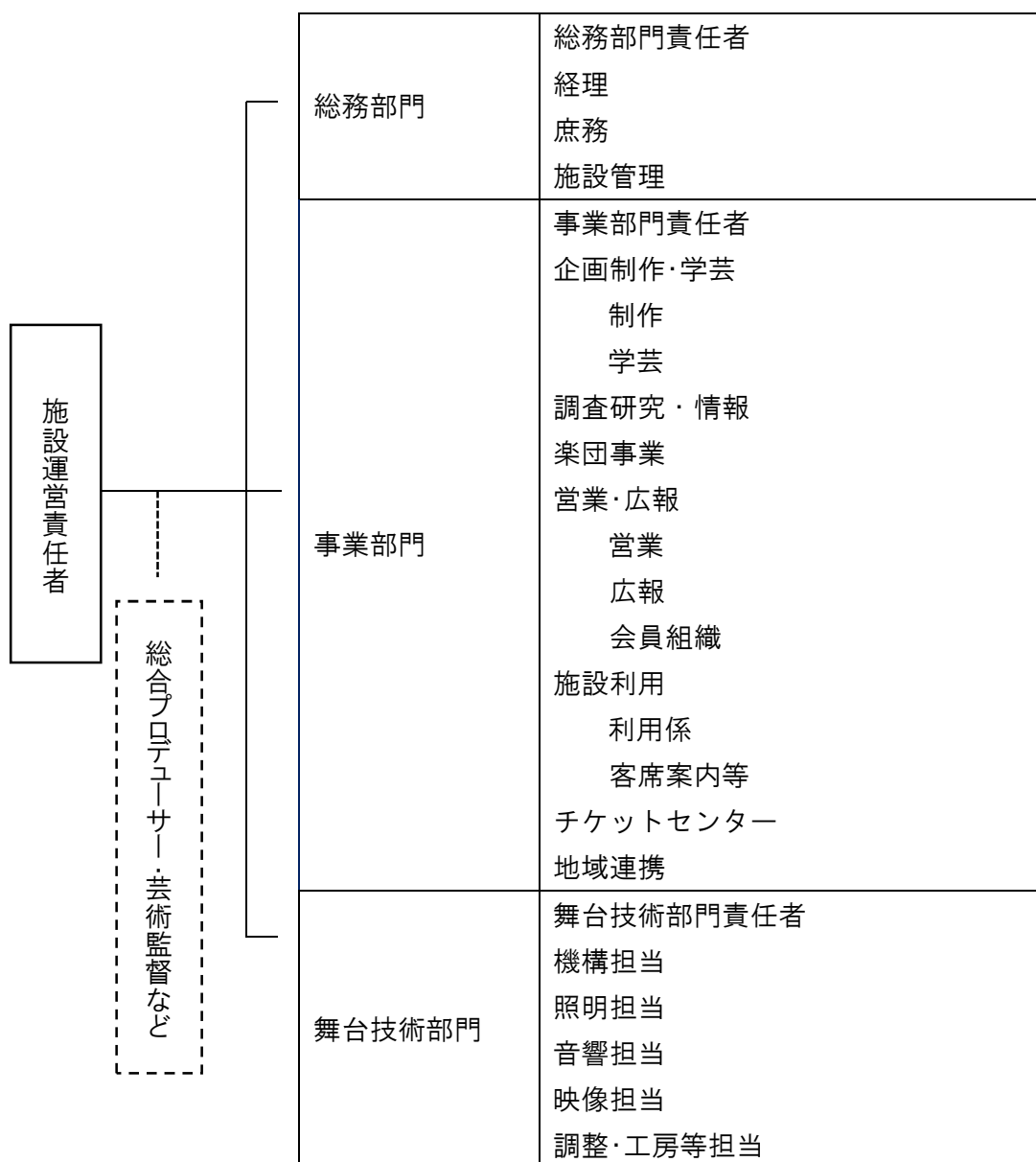
④ 公共性の確保

市が整備する公の施設として、利用者や事業への参加者に対して公平性や透明性といった視点を常に持ち、施設や事業の運営にあたります。

組織体制としては、同規模施設の組織体制を参考にした場合、下記のようなイメージ図が想定されますが、本市においては、3つのホールの整備を計画しているため、各ホールを統括する部門や責任者等の配置についても必要に応じて検討していきます。

また、事業や活動を統括する能力として、総合プロデューサーや芸術監督などの配置、その他、必要な配置人員数についても今後検討していきます。

【組織体制のイメージ図】



【通常ホールで想定される各部門の業務内容】

■総務部門

総務部門では、経理や人事、また施設維持管理等の庶務的な事務を担います。

■事業部門

事業部門は、新・神戸文化ホールで展開する自主事業の企画・調整から実施までの業務全般を担います。また、貸館に関する業務も、他部門と連携しながら担当します。

文化面における地域連携のハブ機能を配置し、官民一体となったまちづくり、にぎわいの創出にも対応します。

■舞台技術部門

舞台技術部門では、各ホールの舞台設備の管理運用を担うほか、事業を実施していくうえでの技術的な業務を担当します。積極的に創造・発信する事業を展開する施設であり、また、芸術文化活動の支援を行う施設として、舞台技術業務等に精通した職員を配置します。近年では映像利用をする事業も拡大する傾向にあるため、映像関係の技術業務への対応も想定します。

■新たに必要となる業務

3つのホールの統括や三宮周辺地区にある各ホールや各区にあるホールとの連携、楽団運営事業やエリアマネジメントでの役割などが新たに求められます。

こうした新たに必要となる業務に関しては、体制のあり方も含めて検討していきます。

(3) 収支計画の考え方

新施設の運営に当たっては、継続性をもって事業や活動を安定的に行うために、使用料収入や事業による収入割合を高めることに努めます。

様々な収入確保の可能性について検討し、市の負担を押しえていくことは当然のことですが、文化を活かしたまちづくりへの投資として相応の市の経費負担も検討します。

【劇場、音楽堂等で想定される収支項目】

■収入

- ◆ 使用料収入
- ◆ 事業収入（入場料、事業参加費、事業への助成金、協賛金など）
- ◆ その他（飲食ラウンジなど目的外使用等による収入など）
- ◆ 市からの収入（指定管理料等）

■支出

- ◆ 事業費
- ◆ 人件費
- ◆ 維持管理費

現在、全国各地の劇場、音楽堂等では、多方面からの収入を確保することで、安定的な管理運営を行うことを目指し、設置自治体だけに寄らない収入確保の方策が検討されています。

【収入確保の事例】

- 賛助会員制度
- 寄付制度
- 「ふるさと納税」の特定目的での活用
- ネーミングライツ（建物全体、各ホール、練習室等）
- ネーミングライツ（客席椅子、階段のステップ等）など

5. 整備スケジュール（予定）

各ホールの整備時期については、以下の事業に準じて進めていきます。

機能	関連事業名	完成時期（予定）
大ホール （多目的ホール）	雲井通5丁目地区再整備事業 （新バスターミナル（Ⅰ期））	2025年度頃
中規模ホール （音楽ホール）	本庁舎2号館再整備事業	2025年度以降
中規模ホール （多目的ホール）	雲井通6丁目地区再整備事業 （新バスターミナル（Ⅱ期））	2029年度以降

6. 概算事業費

中規模ホール（音楽ホール） 約60億円（建築費のみ）

※大ホール、中規模ホール（多目的ホール）については、雲井通5丁目地区再整備事業（新バスターミナル（Ⅰ期））、雲井通6丁目地区再整備事業（新バスターミナル（Ⅱ期））の進捗により算出し、適宜公表していきます。

7. 今後の検討課題

施設整備に向けて、今後検討が必要な課題として、以下があげられます。

● 現・文化ホールからの継続性への考慮

別の敷地に建替えることから、新しい施設の開館まで現施設を活用することが可能です。現施設が行っている事業などの継続性にも考慮し、また施設利用者に対してはスムーズな移行ができるように考慮します。

● 全計画終了までの運用及び組織体制

3つのホール、それぞれが完成時期の異なる複合施設に整備されることから、すべてのホールが完成するまで、現施設を運営する必要があります。そのため、最大で3か所に分かれて事業の実施や施設を運営することになります。特に、現施設は三宮周辺地区からは至近とは言い難い距離にあり、これらの施設を一体的に運用できる組織作りについても、段階的に取り組めるよう早急な計画化が必要です。

● 中規模ホール（多目的ホール）の運用について

中規模ホール（多目的ホール）については、中央区の区民ホールの機能を備える計画としていることから、利用形態に応じた運用（料金体系等）についても検討する必要があります。また、完成時期が3つのホールの中で一番遅くなるため、完成までの間、中央区の区民ホール機能の確保についても、柔軟な対応を検討します。

- **事業内容・管理運営の検討**

本計画で定めた事業や管理運営の基本的な方向性を基に、今後は、具体的な事業内容や、どのように施設の管理運営を行っていくか、また、それらを実現するための人員配置計画など具体的な検討を進めていきます。

また、3つのホールについて、利用時のルールの一統化など（申込み時期等）、利用者の利便性についても検討します。

- **整備推進体制**

ホール整備に関しては、民間事業者等との協働の中で整備していく計画となっているため、本市においても整備推進のため、体制を整えていくことが非常に重要です。

そのため、芸術文化事業、文化施設運営など、文化施設としての専門的な知見を持った人材などを早期に確保することを検討します。これにより、具体的な施設計画の立案から、整備、運営を円滑に推進できるようにします。

- **先行したソフト事業の実施**

開館前の段階から、現・文化ホールなどの既存インフラを活用した、街を一体的に巻き込んだイベントなどの実施を検討します。

- **現・文化ホールの継続使用と大倉山地区について**

雲井通5・6丁目地区再整備は5丁目（Ⅰ期）から段階的に実施される予定です。そのため、利用者にご不便をおかけしないように、6丁目（Ⅱ期）の中規模ホール（多目的ホール）が整備されるまでの間、現・文化ホールの中ホールについては引き続きご利用いただけるよう運用することで機能維持を図ります。

なお、中ホール移転後の大倉山地区全体については、地域の活性化に資するよう、全市的な視点により再整備について検討を進めていきます。